

大会派遣 / 研修会参加

第 73 回 (第 74 回冬季) 国民体育大会近畿ブロック大会 参加報告

----- 「国民体育大会近畿ブロック大会に参加して」 2 級審判員：深井 佳晶 -----

8月17日～19日の3日間、和歌山県で開催された「第73回(第74回冬季)国民体育大会近畿ブロック大会」に審判員として参加しましたので、ご報告させていただきます。

はじめに、今大会に参加させて頂きました、(一社)関西サッカー協会、(一社)兵庫県サッカー協会の皆様、そして大会運営、大会期間中にサポート頂いた和歌山県サッカー協会の皆様に感謝申し上げます。

8月17日(1日目) 上富田スポーツセンター球技場

【担当試合】少年男子(1回戦) 滋賀県一和歌山県

主審：深井佳晶 副審：梶原彰一氏・井出本瞭氏 第4の審判員：山東憲司氏
審判インストラクター：森本洋司氏

1日目は少年男子1回戦の主審を担当しました。

この試合では前半に得点を認めるか、オフサイドの反則(相手競技者を妨害する)と判断するかで試合結果を大きく左右する判定がありました。この事象に関しては、アウトオブプレー後に副審との協議の上で、オフサイドと判断し得点を認めませんでした。この時は落ち着いて副審と会話し、

「(主審)：シュートをセーブしようとした守備側(和歌山)の何番の競技者は最後方にいた競技者か。その真横に攻撃側何番の競技者が居たのは把握していたか。

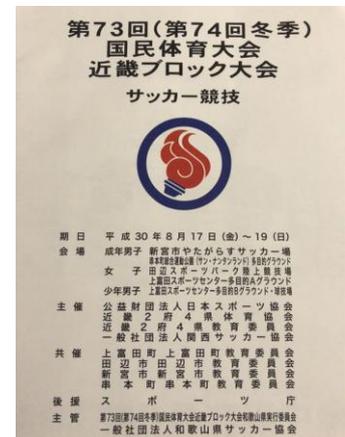
(副審)：守備側(和歌山)何番は最後方にいた。しかし、シュートをセーブしようとした競技者の真横に居たオフサイドポジションにいた競技者(滋賀)は、セーブしようとした守備側(和歌山)競技者に妨害は無かったとこの位置からは判断した。

(主審)：主審の位置からは、真横にいたオフサイドポジションにいた何番の競技者はシュートされたボールに足を出し和歌山何番の競技者に影響を与えている。だからオフサイドの反則とする。

(副審)シュートをセーブしようとした競技者の横にいたのは間違いなくオフサイドポジションにいた。だから妨害の判断は任せる。」

このような会話をしました。ゴール前に競技者が密集し、GKも飛び出し後方から2人目の競技者が入れ替わる状況の中で、曖昧な判断・間違った判定をすることが無く上手くコミュニケーションを取れたと思います。

振り返りでは、森本 ins から「審判団の判断を支持します」とコメントを頂きました。その他では「試合の入り方について、始めの10分間で何を行うか。普段のリーグ戦やトーナメント戦とは全く違うテンションでの試合にどのように対応・予測・予防したら良かったのか。」とのコメントを頂き、2日目に繋げる振り返りを行いました。



8月18日(2日目) 新宮市やたらすサッカー場

【担当試合】成年男子(2回戦) 和歌山県-奈良県

主審：井出本瞭氏 副審：深井佳晶・平野裕一郎氏 第4の審判員：大須賀淳志氏
審判インストラクター：三宅毅氏

2日目は成年男子2回戦の副審を担当しました。

この試合では副審としてファウルサポートが必要かどうかの事象で、事象が起きた時の主審がプレーを監視していた距離・角度はどうであったか、主審は副審にサポートを求めてきたか等を考慮し、副審としてはサポートを行いませんでした。

振り返りでは、「主審の方が良い角度であった。距離も近かった。しかし事象との距離が近すぎることで逆に見えづらかったのではないか。競技者のチャレンジするスピード・距離は離れていたほうが把握できることもある。」とコメントを頂き、サポートした方が良かった事象でした。

8月19日(3日目) 串本町総合運動公園(サン・ナンタンランド) 多目的グラウンド

【担当試合】成年男子(決勝) 京都-和歌山

主審：小野寺完途氏 副審：堀善人氏・深井佳晶 第4の審判員：青木崇文氏
審判インストラクター：森本洋司氏

3日目は成年男子決勝の副審を担当しました。この試合では主審が決めたタッチジャッジ(CKかGK)に対し副審が決定を変えるかどうかという事象がありました。

攻撃側競技者のシュートがレフェリーサイドに外れた。この時、GKのワンタッチがあったかどうかで、副審からの角度ではワンタッチがあったと判断しました。

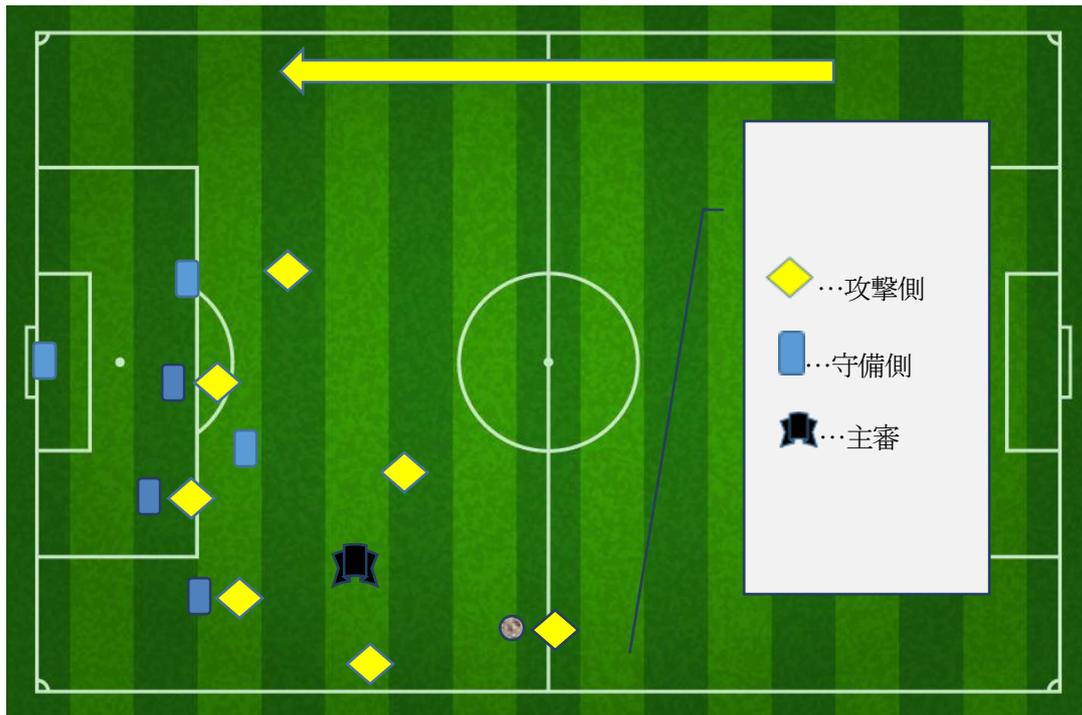
ゴールラインに走り、シグナルしようとして主審とアイコンタクトを行った際、主審は笛を吹き、ゴールキックのシグナルを行いました。私のこの時の意識としては、「自分が見たワンタッチは実はGKの手ではなくポストに当たったのでは。レフェリーサイドにタッチアウトしたから。主審が自信を持って判定していたから。」等を考え、主審のシグナルに合わせてゴールキックのシグナルをしました。

しかし、攻撃側競技者と数名の守備側競技者はコーナーキックの雰囲気でもコーナーキックの再開の動きをしました。この時、競技者と審判団の判定の食い違いが判明し、攻撃側競技者は主審に「コーナーキックでしょ」とアピールした際、主審から改めてアイコンタクトがありましたが、私は主審を副審も1度ゴールキックのシグナルをしていることから再度ゴールキックのシグナルをしました。内心は「競技者のリアクション的にもやっぱりワンタッチあったのだろう。自分がもう少し待てば。」と思いました。

振り返りでは、主審とも意見交換を行い、副審としては単に主審に合わせて一瞬待ってみる。「1度シグナルを行っていたとしても、自信があるなら判定を変える。明らかな判定の間違いであるならそこまで競技者も異議を示さない。特にGKかCKかでは大きな違いである。」とコメントを頂きました。



【試合以外での活動】 上富田スポーツセンター球技場・トレーニング室
8月17日（プラクティカルトレーニング）



【レフェリーサイドからの攻撃の展開でプレーに巻き込まれた状況】

試合の状況を想定し、プレーに巻き込まれた際にどのように意識して移動するか、背後にいる競技者を把握するか、体の向き、次の展開に遅れないか、気づきを持てるか等を意識して行いました。

8月18日（フィットネストレーニング）上富田スポーツセンター・トレーニング室

ストレッチボールを使用した、内側の筋肉の活性化による効率的な体の使い方を学びました。人は普段、背筋や腹筋のように外側に付いている筋肉を使用して体を動かしている。

しかし、外側に付いている筋肉を動かす為の内側の筋肉を上手く使っている人は少ない。ストレッチボールと腹式呼吸を行うことで内側の筋肉を活性化させ、効率よく体を使えることができ、疲労の軽減やケガの防止に役立つというトレーニングを行いました。

【最後に】

私自信、今大会に初めて参加させて頂きましたが、この3日間で関西トップの審判員・インストラクターの先生方と多くの意見交換ができ、そしてこの大会の主役であるプレーヤー（競技者）やチームスタッフの皆様から多くを学び、自分自信を見つめ直すきっかけになりました。自分自身を振り返ると、3日間で成功したことは自信に繋がり、また失敗したことの方が多くあり、決して満足のいく結果ではありませんでした。

しかし、失敗しそこから学べたことが今の自分に足りない点として浮き彫りになり、今後の成長としてとても大きいと感じた大会でありました。

この度はこのような大会に派遣する機会を与えて頂いた、（一社）関西サッカー協会、そして私を成長させていただき日頃お世話になっております（一社）兵庫県サッカー協会、大会期間中サポート頂いた和歌山県サッカー協会の皆様に感謝いたします。

ありがとうございました。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

---国民体育大会近畿ブロック大会サッカー競技 参加報告 2級審判員：堀 善仁---

【はじめに】

はじめに、国民体育大会の関西予選とも言えるこのような大会に、審判員として参加することができ、貴重な体験を多くすることができました。審判員として選んでいただいた(一社)関西サッカー協会審判委員会、並びに日頃お世話になっております(一社)兵庫県サッカー協会審判委員会の皆様に感謝致します。

【国民体育大会近畿ブロック大会(ミニ国)とは】

毎年夏の時期に、国民体育大会の本大会を目指して行われる近畿ブロックの予選大会です。

サッカー競技では、「成年男子の部」「少年の部」「女子の部」の3つの種別で関西6府県の選抜チームが自分たちの府県を代表して試合を行います。今年度、「成年男子の部」の本大会出場枠は1、「少年の部」の本大会出場枠は3、【女子の部】の本大会出場枠は1でした。

主審を担当する審判員は、(一社)関西サッカー協会審判委員会によって、前期の成績をもとに選考されます。

【スケジュール】-----

8月17日(金)

- 10:00 各会場にて試合
試合終了後、インストラクターと振り返り
- 14:00 プラクティカルトレーニング
「ポジショニングと動き」「副審としてのサポート」
- 16:00 競技規則テスト

8月18日(土)

- 10:00 各会場にて試合
試合終了後、インストラクターと振り返り
(関西の2級インストラクター更新講習会の試合分析にも参加
させていただきました。)
- 14:00 競技規則テスト解説
- 15:10 フィジカルトレーニング

8月19日(日)

- 10:00 各会場にて試合
試合終了後、インストラクターと振り返り
各会場にて解散

【8月17日(金)】

少年の部 1回戦 兵庫県 対 奈良県 上富田スポーツセンター多目的G
主審 小久保 遼氏 副審1 光田 智乙氏 副審2 堀 善仁 第4の審判員 辻本 征浩氏
インストラクター 黛氏、角山氏

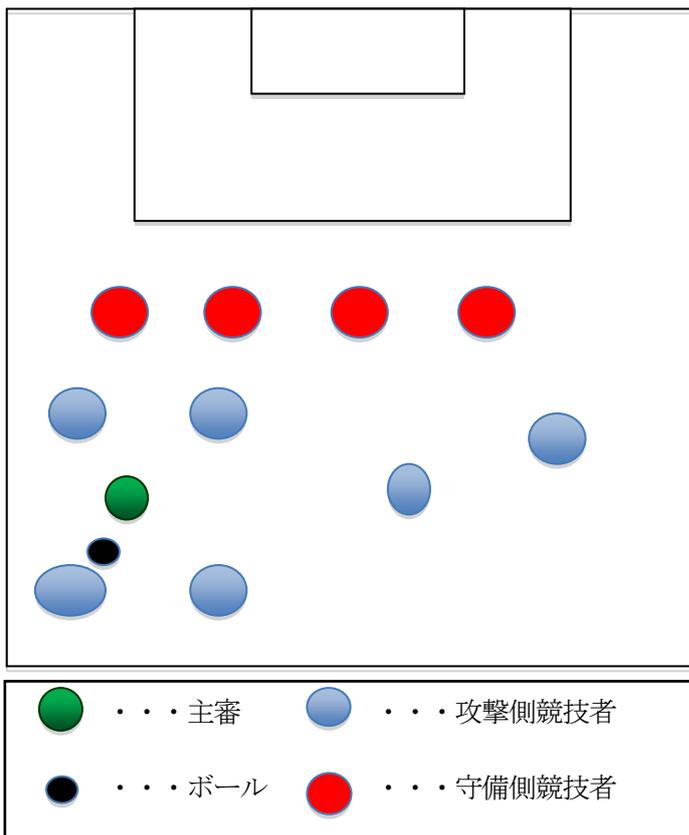
ミニ国1日目は、少年の部の副審でした。私自身、昨年度兵庫県で行われたミニ国で1日目の第1試合で不甲斐ないレフェリングをしてしまったことがあったので、初めから何が起きてもいいような準備をしながら試合に臨みました。

この試合では、私の目の前でファウルが起き、私は「イエローカードが必要ではないか」と感じたのですが、試合中にその事象を判断した主審に任せようと警告が必要ではないかという情報をシークレットサインで伝えることなく、終わらせてしまいました。

試合後の振り返りでインストラクターより、「自分の持っている情報をいかに伝えるか。どのタイミングで伝えるのか。」を意識して、副審を担当するようにとご指導いただきました。

プラクティカルトレーニングでは、「ポジショニングと動き」「副審としてのサポート」の2つのテーマでトレーニングを行いました。

「ポジショニングと動き」

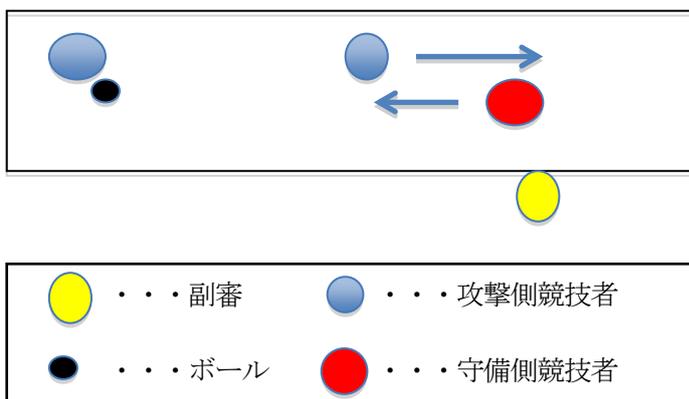


- ①中盤でボールを持った攻撃側競技者がパスを出してスタート
- ②主審はボールに当たらないこと、先の展開を見る位置を探ること、パスコースの邪魔をしないことを意識してポジションを取る。
- ③最終的に攻撃はゴール前に行くので、ゴール前で起きることをしっかりとみる所へ移動する。

[感想]

ボールを持っている競技者がどこへプレーしたいのか(目線やボールをどちらの足で保持しているか等)、攻撃側競技者はどこにいるのかを周りを見て情報収集することが大切。

「副審としてのサポート」



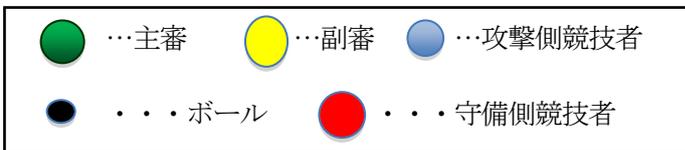
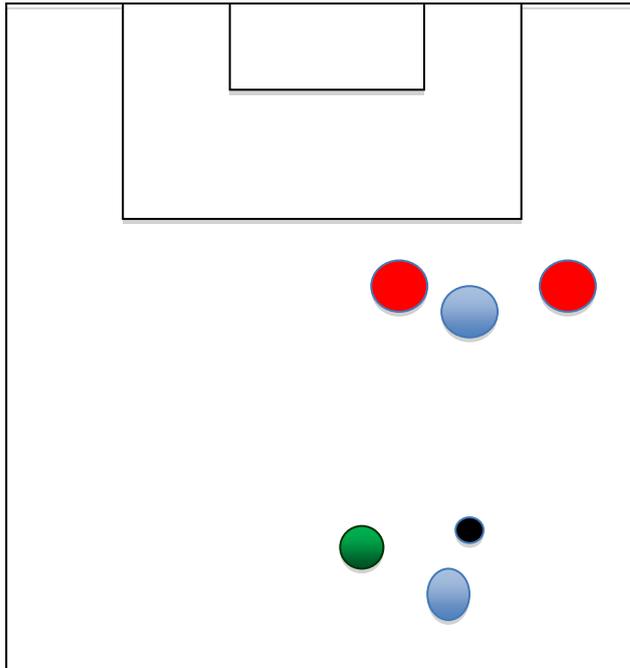
[オフサイド]

- ①守備側競技者の移動により変化するオフサイドラインをキープする。
- ②攻撃側の味方競技者がプレーした瞬間を捉える。

[感想]

攻撃側の味方競技者がプレーした瞬間を捉えることを意識した。

「オフサイド&ファウルサポート」



①副審として、オフサイドラインをキープしながら、副審の前で起こる反則に対して、ファウルサポートをする。

②ファウルサポートをする時に主審の位置を確認し、事象が見えていないと感じる時にはファウルサポートを行う。

[感想]

ただ反則が見えたから、ファウルサポートをするのではなく、主審の位置を確認する余裕を持つことが大事だと感じた。

競技規則テストでは、競技規則改正に関する内容が多く出題されました。毎年改正される競技規則に関して、しっかりと変更点を把握し、理解することが大事だと改めて感じました。

【8月18日(土)】

少年の部代表決定戦 大阪府 対 滋賀県 上富田スポーツセンター球技場
主審 堀 善仁 副審1 梶原 彰一氏 副審2 福岡 渉氏 第4の審判員 小野寺 完途氏
インストラクター 黛氏、柳沢氏、佐古氏

ミニ国2日目は、少年の部の代表決定戦の主審を担当することになりました。この試合は2級インストラクター更新講習会の試合分析にも使われ、観客席には多くのインストラクターの方々が座っていたので、主審として緊張せずいつも通りを心がけて試合に臨みました。(もちろん試合前には緊張した状態になっていました。)

試合の中で中盤でのポジショニングや動きが定まらず、どのタイミングでゴール前を見ようかを悩んだままのレフェリングでした。その中で試合中に自分でサイドに広く開いてみるとどうなるだろうか、先取りのポジションから争点を見よう等、考えながら一つ一つの判定を取りこぼさないように気をつけていました。

試合後の柳沢氏との振り返りでは、「ホールディングの反則が多くなりそうだな、と意識を持ったタイミングはどこか？」という話になりました。私は漠然とホールディングのファウルを吹きながら、“この試合はホールディングが多いな”と感じていたのですが、柳沢氏より「前半1分にタッチライン付近でホールディングの反則があり、主審は笛を吹けていなかった。このタイミングで今日はホールディングが多いかもしれない動きと角度を修正する必要がある。」という話でした。角度を修正するという意識が少なく、距離を縮めようという意識を持っていたので、今後の課題となりました。

インストラクター講習会での試合分析では、佐古氏より「周りを見て、自分が今どの位置にいるのかを把握すること。」、クイックリスタートに遅れ、ゴール前の争点から離されたシーンを取り上げていただき、「チームがどこを狙っているのかを情報収集すること。」をご指導いただきました。

黛氏からは、「FKの時にキッカーを注視しすぎているが、大切なのはキッカーがどこを狙っているかを意識すること。」、「最短でゴール前まで運べる攻撃をイメージすることで、動き出しが早くなる。ポジションをとる時には、まずゴール前の状況から確認するように。」とご指導いただきました。

多くのインストラクターの方からアドバイスをいただける貴重な経験をさせていただき、また自分で考え行動した結果、反省する課題が生まれ、改善点も教えていただいたので、今後活かしていきたいと思えます。

廣嶋氏のフィジカルトレーニングでは、呼吸法(腹式呼吸と逆腹式呼吸)や姿勢や体のコアの筋肉についてのご指導いただきました。普段使っていない筋肉を無理なくリラックスして使うことで、関節の可動域や動きの軽さを感じることができました。

【8月19日(日)】

成年の部代表決定戦 京都府 対 和歌山県 串本サンナンタン運動公園陸上競技場
主審 小野寺 完途氏 副審1 堀 善仁 副審2 深井 佳晶氏 第4の審判員 青木 崇文氏
インストラクター 森本氏

ミニ国最終日は成年の部の代表決定戦を担当することになりました。ミスなく、無事に大会が終了するように、またプラクティカルトレーニングで学んだことを意識し、主審の小野寺氏がどこでどのような映像でプレーを見ているのかを考えながら副審を担当しました。

試合は和歌山県が先制し、追いつかれ、さらに突き放すという70分間の中でも非常に内容の濃いものでした。主審の小野寺氏が競技者のプレーに合わせて上手に角度を修正されているのをみて、副審を担当しながら「こういう動きをしなければいけないんだ」と学ぶことができました。

試合後の振り返りでは、オフサイドの判定についてコメントがあり、「2列目が飛び出してくるかもしれないとwait & seeを使い、ボールがタッチライン付近で止まったので、これ以上waitする必要がないとフラッグアップしたのは良かった。」と副審として、オフサイドをどの時点で主審に知らせるか、タイミングが大切であることが分かりました。

【最後に】

この4日間、運営として色々な所で動いてくださった(一社)和歌山県サッカー協会の方々に感謝致します。ありがとうございました。

今回のミニ国では、今まで経験したことのない代表決定戦の主審を担当させていただきました。試合が無事に終わった時に、緊張から解き放たれ、ホッとすることを覚えています。

このような大会に呼んでいただけるのも、日頃の1試合1試合を無事に終えることができているからだと思えます。今後も1試合1試合を大切に、試合で良いパフォーマンスを出せるように努力していきたいと思えます。

ミニ国は関西の中でも本当にレベルの高い試合だと思えます。そのような場に審判員として立つことができたのは、今まで私に関わっていただいた方々のご指導があったからだと思います。今後さらに上達していきたいと考えていますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い致します。